

## 原子炉利用研究者グループ幹事会 議事録（案）

**日時** 平成 27 年 10 月 19 日（月） 12 : 00～12 : 50  
**場所** 京都大学原子炉実験所 図書棟会議室  
**出席者** （首都大）海老原充、（大阪府立大）堀史説、（北大）石川正純、  
（京大炉）櫻井良憲、増永慎一郎、田中浩基、高宮幸一、藤井俊行、  
杉山正明、鈴木実、大槻勤、中島健、木梨友子、齋藤毅

### 配付資料

- ・ 議事次第
- ・ 前回総会議事録（案）

### 議事

#### 1. 共同利用研究者宿泊所での喫煙場所について

大学の規定により喫煙場所は、出入り口から 5 m 以上離れた場所に設置し、屋根付きである必要がある。この規定を受けて、共同利用研究者宿泊所における喫煙場所の設置について議論がなされた。

- ・ 規定に沿った形で喫煙場所を設置することに問題はないことが確認された。
- ・ 新たな喫煙場所の設置箇所として駐輪場の一角を充ててはどうかとの意見が出された。
- ・ この議論の中で堀幹事から、駐輪場に夜間照明を設置してほしいとの要望があった。

#### 2. 利用者グループ幹事の選挙方法について

櫻井総務幹事から、前回の選挙結果の概要の説明、および「死に票が多い」「候補者名簿に挙げられた被選挙人の人数が多く投票に労力を要する」という状況説明があり、選挙方法を改良した方が良いとの提案があった。この提案に対して以下のような議論がなされた。

- ・ これまで選ばれてきた幹事の専門分野に偏りがあるため、偏りが少ない選挙方法を考える必要性が指摘された。
- ・ 専門分野の構成人数の多少による死に票数への影響を小さくするため、2 段階選挙を実施してはどうかとの意見が出された。
- ・ 専門分野をあらかじめ分け（例：「生物学」「化学」「物理学」「その他」）、分野ごとに 2 名程度の投票を行う方法が提案された。この方法で選挙を行うとした

時、分野所属人数を反映させるため、1段階目は専門分野ごとの選挙、2段階目は分野をまたいだ選挙を行う2段階選挙としてはどうかとの意見が出された。

- ・ 「1次選挙として、設定した専門分野ごとに2名の投票を行う。次に、1次選挙で設定得票数以上を獲得した被選挙人に対して分野をまたいだ2次選挙を行う。2次選挙の結果に従い幹事を選出する。」という選挙方法の暫定案がまとめられた。今後さらに議論を継続していくことになった。
- ・ 増永幹事から、幹事の数、役割の見直しが必要ではないかとの意見が出された。今後、幹事会の役割の明確化作業を行い、併せて各幹事の役割についても議論していくことになった。

### 3. その他

- 石川幹事から、幹事会で議論された事項、要望を実験所の運営に反映させる機構について質問があった。
  - ・ 櫻井総務幹事から、共同利用研究委員会、運営委員会には幹事会から推薦された委員が選出されているので、幹事会で議論された事項、要望はそれら委員会での議論に反映されることになるとの説明があった。また、提案議事事項がある場合は幹事会開催前に事務局に連絡することも可能であるとの説明があった。
- 堀幹事から、利用者の要望を汲み上げる方法を明確化し周知すると同時に、その方法をよりシステムティックなものに改良すべきであるとの意見が出され、今後検討していくことになった。
- 海老原代表幹事より、利用者の要望を運営委員会の議論に反映させるためにも、要望の汲み上げと幹事会での議論の活性化を望むとの発言があった。

以上

文責：齊藤（毅）